

教職員による学校評価の分析

- ・調査をとった11項目すべての項目でA+B（十分に達成と達成）の割合が8割を超えた。特に④「計算オリンピック平均95点以上が達成できたか。」⑥「登校時のあいさつ・ハイタッチ100%できたか。」⑦「出席率99%が達成できたか。」⑧「4つの実践」「3減運動」自己評価（児童と保護者）平均95%が達成できたか。⑩「校庭150周を達成できたか」⑫「朝食摂取率100%達成できたか。」については、100%であった。
- ・他の項目についてもおおむね90%程度の達成率である。
- ・調査の時期が12月であり、2月までのスパンで取り組んでいるものもあるので、その頃に再調査すればもっと達成度が上がるものもあると考えられる。
- ・これまで同様に、「知」「徳」「体」に関する項目全てで自己評価が概ね高かった。担当を中心に全職員で100%達成を目指して、取り組ませたい。

保護者による学校評価の分析

- ・全体的に見るとA+B（十分に達成と達成）の割合が約9割に達した項目は9項目中6項目であった。昨年度は約9割に達した項目が9項目であったが、その他3項目もA+B（十分に達成と達成）の割合が約8割であるので取組が保護者に定着してきたことがうかがえる。
- ・特にA評価の割合が高いのが、③「良文・古典の暗唱を10個以上します。」⑧「毎日、朝食を食べます。」⑨「むし歯をつくりません。」または「むし歯になったら、治療します。」を実践できましたか」の項目であり、達成には特に保護者の協力が必要な項目である。
- ・逆にA評価の割合が低くなっているのは、①「読書を40冊（1、2年）30冊（3年以上）以上しすに取組みましたか。」と⑥「4つの実践」「3減運動」の実践についてである。
①は、読書の習慣が身に付いていない児童が見受けられるからである。そこで、雨天の休み時間等に集団読書を取り入れるなどの工夫が必要である。
⑥は、今年度も継続して、児童と保護者対象のスマホの使い方の研修を実施するなど取り組んでいる。取組の状況を定期的にチェックしたり、認め・励まし、継続させる取組を学級や学年で取り組んだりしているので、パソコン、スマホ等の使用時間増加に歯止めがかかっている状態である。貸与された一人一台端末の扱いも含めて取組を継続していきたい。
- ・⑨「むし歯をつくりません。」または「むし歯になったら、治療します」を実践できましたか」の結果は、教師側の評価と大きく分かれたところである。保護者に対し、「学校はすべての家庭がA評価を付けることを目指している」ことを伝えていくことで、協力いただけない家庭の意識を変えていきたい。
- ・以上のことから、13の取組（保護者には9の取組）が浸透したことにより、成果が出ていることがわかる。そこで、これまでの取組を継続し、すべての保護者への浸透を目指していかなければならないと考える。

学校関係者による評価(2月の学校運営協議会より)

- ・自主的に考え行動する様子が、校長の話や児童の行動を見て感じる。教育方針が良い方向に進んでいるのではないかと。
- ・6年生の感謝の言葉（手紙）を聞いてクラスの仲の良さ、互いの思いやりが浸透している。強さをどのように高めていくか。
- ・目標達成意識の向上が見てとれる。今後更なる目標アップを目指すのか、又は項目を増やすのか検討したい。
- ・100%達成目標だけではなく、自主的に取り組める方法を提示できるとなお良いのかと考える。
- ・PC、ゲームとの距離の取り方が難しい。あいさつは大人からもしていきたい。
- ・遊びの中で体を動かす機会が減ってきているので、体力の個人差が大きいと考える。苦手意識を少なく取り組める工夫があると良い。

校長総括

今年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、音楽や体育、家庭科等の授業では、感染症対策のために制限ある生活を強いられている。そのような中でも本校は、学力等において素晴らしい成果をあげることができた。これも保護者の皆様のおかげだと考えている。

6年目となった「長井小13の取組」が定着し、達成率が高水準を維持している。そのため、児童の学力の土台がしっかりしてきていることを実感している。

来年度以降も学校は、知的好奇心を高め、確かな知識や技能、思考力や表現力を伸ばす授業の充実を努めていく。ご家庭のご理解・ご協力を得ながら成果を上げていきたい。